

平成 25 年度 第 2 回 京の環境共生推進計画評価検討部会
会議録

日 時 平成 25 年 12 月 19 日 (木) 午前 10 時～

場 所 職員会館 かもがわ 3 階 第 2 多目的室

出席者 小幡部会長, 池垣委員, 板倉委員, 大久保委員, 小山委員, 外池氏 (奥原委員代理)

欠席者 深尾委員, 村瀬委員

内 容

1 開会

2 議題

(1) 京の環境共生推進計画評価検討部会における検討結果について

・事務局から京の環境共生推進計画評価検討部会における検討結果について資料 1 を用いて説明

(小幡部会長) 資料 1 別紙の総括について, 長期的目標 1 の 2 番目にある, 温室効果ガス総排出量では, 「市民・事業者の積極的な活動につながる多面的で分かりやすい進ちょく管理の検討」とあるが, これに対応する進捗状況の記載は, 資料 1 本編のどこを見れば分かるのか。

(板原地球温暖化対策推進室担当課長) P4 にグラフが 2 つある。上のグラフは, 電力会社の原発の依存度によって電気の排出係数が変動し, それによる影響も含めて, 温室効果ガス総排出量の推移を表したものである。東日本大震災後に発電方法が原子力から火力へ大きくシフトしたため, 排出係数が非常に高くなっており, これにより平成 23 年度の総排出量が平成 22 年度から増加している。

一方, 下のグラフは, 電力会社の発電方法による影響を取り除き, CO₂削減の取組の成果を分かりやすく表すため, 排出係数を固定して総排出量を計算しており, この場合, 平成 23 年度の総排出量は, 平成 22 年度から減少している。上のグラフだけでは, 市民や事業者の取組成果が伝わらないこともあり, 下のグラフのような評価もしながら地球温暖化対策を推進すべきと考えており, こうした点について, 地球温暖化対策推進委員会でも議論している。

(小幡部会長) エネルギー使用量は減っているものの排出係数が増えているため, 推進委員会の場でエネルギーから CO₂に換算しない評価方法についても検討しているが, 結論が出ていないということか。

(板原課長) 推進委員会では, エネルギー対策と CO₂削減を分けて議論している。なお, エネルギー対策については, 本市エネルギー戦略の策定に向け, 現在パブリックコメントを行っており, 年内策定を目指している。

(大久保委員) 単に排出係数の扱っただけであれば、多面的というよりは、複数の評価ということではないのか。

(板原課長) 地球温暖化対策計画の全般的な見直しを検討しており、排出係数だけでなく、再生可能エネルギーや省エネルギーの強化、また、市民や事業者の取組による進行状況を示す新たな指標の設定といったことについて、幅広く議論している最中である。今回は、全部を載せることができず、CO₂の指標部分だけを載せている。

(小幡部会長) 多面的ということは、車のガソリンの使用による排出といったようなものも入っているのか。

(板原課長) ガソリンの使用量や家庭でのエネルギーの消費量を入れるべく検討中である。

(大久保委員) 再生可能エネルギーの飛躍的な普及拡大について、P5の太陽光発電のグラフが示すとおり、発電出力は増加傾向にあるが、一方で、今年度は固定価格買取制度の買取り価格が下がったため、以前ほど伸びないと思われる。飛躍的な普及拡大に向けた具体策はあるのか。

(板原課長) 平成24年7月に国が固定価格買取制度を開始し、本市としても、市の公共施設に太陽光発電やメガソーラーを設置し、また、市民向けの補助制度も継続している。来年度以降、国の補助制度がなくなるが、市としては補助制度を維持しながら進めていきたい。エネルギー戦略を今年中に作成する予定であり、その中で再生可能エネルギーの導入目標を2010年度比3倍以上に引き上げることとする。

また、市内には細やかな景観規制があるが、この度、太陽光パネルの景観に関する運用基準を改定し、分かりやすく設置しやすいものとし、業界団体とも連携しながら取り組む予定である。

(大久保委員) 資料1別紙 長期的目標5について、来年が最終年度となるESDが入っていないことに違和感がある。京都ではESDに取り組まないのか。

(西尾環境総務課調査係長) 環境省からESDプログラムへの協力要請があり、学校現場でのモデルプログラムを進めている。

(大久保委員) こどもエコライフチャレンジ推進事業とは、こどもエコクラブの後継事業なのか。

(西尾係長) P35のこどもエコクラブは、環境省の受託事業で、本市から登録団体に対して啓発事業等のための補助金を出している。近年、国の事務移管とともに、補助金の額が縮小し、参加団体数が減っている。

また、P33で紹介しているこどもエコライフチャレンジは本市の独自事業である。全市立小学校170校での環境学習プログラムを進めている。夏休みや冬休みに家庭でエコ活動に取り組んでもらい、こどもを通じて親にも取組等を広めることが狙いである。

(板倉委員) 京都は、自治体よりNPO、NGOのエコスクールなどの取組を学校に働き掛けて先行して進めている。

(小幡部会長) ESDに関することも進めているのか。

(西尾係長) 特にない。ESD はモデル校でプログラムを実施している段階。エコライフチャレンジは全校で通年事業として取り組んでいる。

(小幡部会長) P33 の②の人材育成数は、京都市が進めた事業の育成人数ということか。

(山田環境企画部計画調整担当課長) 京都市関連で把握しているデータのみであり、NPO などの取組は把握できていない。

(外池氏) P35 のこどもエコクラブは、国の補助金の減少に伴い参加者数が減ったとのことだが、そうした外的な要因にあえて言及する必要があるのか。この事業が補助によって成り立っているという背景が読み取れないと、頑張っ て取り組んでいないように見えてしまうのではないか。

(板倉委員) 国が急激に予算を減らしたことが一番の要因である。京都市の参加団体も積極的に取り組んでいたが、国が方針を変えたため、こういう結果になった。国からすれば自発的にそういうクラブが育ってくればいいという考えである。

(大久保委員) 環境省としてはこの事業の予算は減らしたくなかったが、結果的に削られた。環境省としては、代わりに少しでもと公益財団法人日本環境協会に予算を付けている状況である。環境省にも、エコクラブは成果も上がっており重要だという認識があった。

また、こどもエコライフチャレンジの記述とこどもエコクラブの記述をばらばらに示すと、相互の関係が見えづらく、市民にとって分かりにくいので一緒にしてはどうか。若しくは、独自事業は増えていると触れてはどうか。

(小幡部会長) 市独自にこどもエコライフチャレンジや NPO 等による活動などに取り組んでいることも記載した方がよい。

(山田課長) 記載方法を工夫したい。

(池垣委員) こどもエコライフチャレンジの記載については、プログラムをした、授業をしたというだけでなく、実際に子供たちが活動したことも示していけば、子供たちの関心が高まり、活動について積極的になれるだろうと思う。

(2) 平成 25 年度版「京の環境共生推進計画 環境レポート」等の作成について

- ・事務局から平成 25 年度版「京の環境共生推進計画 環境レポート」等の作成について資料 2-1, 2-2 を用いて説明

(小幡部会長) この部会で確認した資料 1 の進捗状況のデータなどは、ホームページで公開し、この資料 2 は、パンフレットとして市民に配布することとなる。

(西尾係長) 最終的な見栄えなどの仕上げは業者に委託していくので、掲載する内容、素材について御意見を伺いたい。

(大久保委員) 自前でここまで仕上げるとてもよいと思う。インパクトもあって分かりやすい。意見としては、「私たちにできること」と参加を呼び掛けているのだから、例えばエコバスツアーであれば、「もっと詳しい情報はこちら」というように、お問合せ先

を記載したり、ホームページに誘導した方がよい。また、雑がみと聞いてもイメージしづらいので、具体例を書いた方がよい。また、先ほどの資料 1 の、市独自の保全基準について、資料 1 を見ても分からない。基準値を資料内に入れるのは難しいと思うが、せめて、ホームページのアドレスを記載するなど保全基準を知るための誘導先を示すとよい。

(西尾係長) 基準値はホームページから確認できるようにする。エコバスツアーの連絡先、雑がみについても記載できるよう工夫する。

(小山委員) 見栄えはこれからとのことだが、3 つの大きな柱のうち、“低炭素型のくらしや時速可能なエネルギー社会の実現”と“ごみを出さない低炭素型社会の構築”が見開きで見られる方がよい。“私たちにできること”の部分では、こんなパンフレットがあります、のようにパンフレットの画像を載せられれば分かりやすい。

(山田課長) 3 つの柱は、京都市基本計画の並びに沿ったものだが、構成については検討したい。また、詳しい情報や問合せ先などにアクセスしやすいよう工夫したい。

(大久保委員) 見開きにするのであれば、P1 “自然環境とくらしを気遣う環境の保全”を後ろに回し、P2 以降を最初に持って来ることになると思うが、生物多様性プランの策定は今年度のポイントだと思うので、例えば、表紙のイラストを生物多様性に関わるもので見せたりしてはどうか。

(小山委員) P1 “自然環境とくらしを気遣う環境の保全”における、“生物多様性とは”の説明が、専門的な表現と違う。学術的な定義に一定準拠しつつ、できるだけ分かりやすく記載した方がよい。

P4 “ごみを出さない循環型社会の構築”について、2R を重視した取組とあるが、2R とは耳慣れない表現であり、やはり 3R を基本とするべきではないのか。

(山田課長) “生物多様性とは”の説明については、生物多様性保全検討部会での議論等も踏まえて表現を工夫したい。2R については、京都市の方針として、まずは上流対策として 2R 「リデュース」「リユース」を進めて、それでも出されるごみはリサイクルするという 2 段階で取り組んでいることを御理解いただきたい。

(池垣委員) 昨年までのパンフレットと比較して、文字は大きくなり見やすいが、行間をもう少し空けたり、行頭をずらすなど見やすくした方がよい。

(小幡部会長) パンフレットの表紙に作成年度は入るのか。

(山田課長) 見やすさについては、業者に仕上げを委託する中で改善したい。パンフレットの表紙に作成年度を記載することも検討したい。

3 閉会